

## [16] 陰経(=内)病証 1.上焦：邪気の病 (呼吸・循環器系)

(1) 基本的に：体の内側の横隔膜より上に主な症状が出る (呼吸循環器系)

- ① 上焦の病は、邪気に因ることが多く、手の陰経に引きやすい
- ② 横輪切りの兪穴など背中の穴にも引きやすい
- ③ 上焦下部などには、水毒が溜まることもあり、咳・痰の原因となる
- ④ 中焦の水毒や下焦の瘀血・虚が原因することが多く、それへの対処も必要
- ⑤ 膈中より上の症状は手太陰、それより下は手厥陰、心臓系は左手少陰のツボで改善しやすい

(2) ツボが出やすい所

① 手の陰経

- 1.慢性期：肘の近くの上尺沢、上曲沢など
- 2.急性期：手首の近く
  - i. 咳なら列缺
  - ii. 吐き気なら内関
  - iii. 不整脈なら左陰郄

② 陽位(背)・・・1,2行線、督脈、華佗経

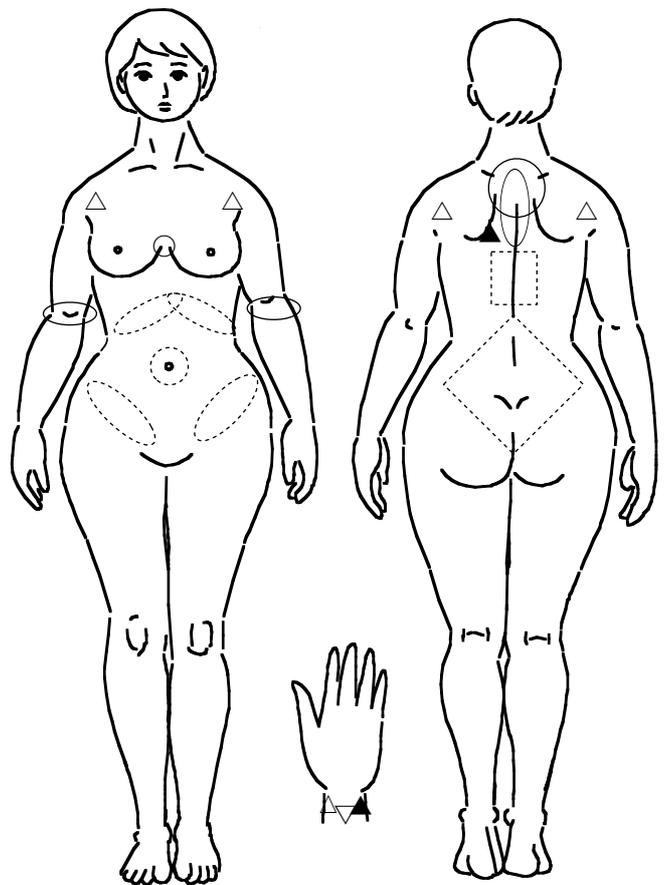
- 1.呼吸器系 : 肩甲間部上半分～大椎、肩貞
- 2.循環器系 : 肩甲間部下半分/左
- 3.水毒が原因：胸椎7-9-11
- 4.瘀血が原因：腰椎3～仙骨

③ 胸腹部

- 1.呼吸器系 : 中府、膈中、鎖骨まわり
- 2.循環器系 : 左肋骨間(乳根～期門)

④ そのほか

- 1.水毒が原因：中焦の病のツボ
- 2.瘀血が原因：下焦の病のツボ



(3) 手順

慢性期

① (手甲→) ツボを考慮して慢性期の型 (+灸・灸頭鍼)

・表位の症状もあるときは、先ず、手甲に引く

② 置鍼+灸・灸頭鍼：(指端or骨空(灸)→)(座位→) うつ伏せ→仰向け→手指端or骨空(灸)

※症状が落ち着いていて、かつ、寝た姿勢がラクなら、急性期でも上記をすることもある  
その場合は、後始末の頭散鍼・手甲引鍼も寝た姿勢でしてもよい